

「私も伝えたい」

夏休みの自由研究に

夏休みの自由研究として、分かりやすく書き、教えてもらったことをみんなに話して、戦争のことについてみんなが知れたらいいなと思いました。(Wさん小6)

SNSに感想を

2日間の活動や感想を家族に伝えました。またFacebookに感想や写真を記録しました。毎年8月5日、6日に振り返りたいと思います。(Oさん)

OさんのFacebookより



平和な未来になるために貢献

中学生の寺田さんに説明してもらったことで当時の広島の方々の心情を深く考えることができ、説明の前と後では、ちがった感情で見ることができました。平和な未来になるよう少しでも貢献したい。(Yさん高1)



広島の中学生、寺田さんと子どもたちが交流。寺田さんは小学3年生の頃から碑めぐりガイドをしていて将来は英語で外国の人にも広島のことを伝えていきたいとのこと。

おうちにもできることがあるよ

今、私たちにできること

コープいしかわでは、被爆者の想いに共感し、核兵器の非人道性を理解することや、一人ひとりが平和について考え、継承することに取り組んでいます。

ヒバクシャ国際署名に協力する！

ヒロシマやナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶に向けた国際署名に取り組んでいます。署名にご協力をお願いします。署名用紙はコープいしかわホームページからダウンロードできます。インターネットでも署名できます。



石川県原爆被災者友の会
西本多美子さんからのメッセージ動画を視聴できます(1分50秒)。



<https://www.ishikawa.coop/katsudou/hibakusha-appeal/>

平和募金をする！

平和の旅や平和に関する学習会などの平和活動へご協力を。募金方法:OCR(注文書)の6ケタ番号記入欄に、下記の注文番号と数量(口数)を記入。eフレンズも同様。

●平和活動募金(今回のみ募金)

372684 1口:100円

●平和活動定期募金(毎週自動で募金)

348798 1口:10円

374580 1口:100円

いつでも募金可能です



今年はおうちで観られる！ 2020ピースアクションinヒロシマ・ナガサキ

—— ライブ配信動画を後日公開予定 ——

オンラインで開催される今年のピースアクションinヒロシマ・ナガサキの各企画を録画した動画を配信予定です。これまで広島、長崎に足を運ぶことができなかった方も、ご自宅で被爆者の話を聴き、被爆の実相を知ることができます。



川野さんによる講演の様子(昨年)

例えば…

被爆の証言「サダコと折り鶴の話」

右ページで紹介した川野登美子さんのお話を聴きます。

「オンライン碑めぐり」

ガイドによる平和記念公園などの遺構・慰霊碑の解説動画を交えて学習をします。

「被爆体験伝承講話」

被爆者の被爆体験や平和への想いを受け継ぎ、それを伝えている「被爆体験伝承者」の講話を聴きます。被爆体験証言者から受け継いだ被爆の実相(戦時下の人々の暮らし、原爆被害の概要、原爆の人体への影響など)や伝承者としての平和への想いについてお話いただきます。



特設ポータルサイト
<https://peace.jccu.coop/>

※企画当日トラブルにより録画データを配信できない場合があります。配信時期は特設ポータルサイトでご確認ください。配信期間は実施後2カ月程度の期間限定となります。

語り継ぐ ～戦争のない平和な世界を願って～

今年も戦後75年の節目。被爆者の高齢化により被爆体験を直接聞くことができなくなる日も迫っています。昨年、ヒロシマを訪れた親子が見た・知った・感じたことから、私たちが今できることを家族で考え、行動してみませんか。

平和の旅ヒロシマ2019

コープいしかわでは毎年親子が被爆の実相を知る「平和の旅ヒロシマ・ナガサキ」を開催しています。昨年8月5日～6日、組合員親子12名(大人6名、子ども6名)が、「平和の旅ヒロシマ」に参加しました。(2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止しています)



「地獄のような光景は どれだけ言葉を重ねても」

「原爆の子の像」のモデルとなった佐々木禎子さんの同級生、川野登美子さんが被爆の証言者として語ってくれました。

「国民は何もしていないのに、なぜこんなに理不尽に苦しめられて命を奪われなければいけないのか」という、川野さんの言葉が印象に残りました。原爆を実際に体験した人は、私たちに戦争のつらさを教えてくれます。しかし、地獄のような光景はどれだけ言葉を重ねても伝え切れないこともあるでしょう。だからこそ、私たちはその人たちの話を聞いたことを大切に、それを後世に語り伝えていかなければいけないと思いました。(Yさん高1)



「これはぼくらの叫びです
これは私たちの祈りです
世界に平和をさずくための」
(碑文より)

原爆の子の像

原爆で亡くなった多くの子どもたちの霊を慰め、世界に平和を呼びかける目的でつくられました。



川野さんと禎子さんは2歳のときに被爆。その後は元気に学校に通っていましたが10年後に禎子さんが白血病を発症し8カ月後に亡くなりました。「なんでサダちゃんが死なにやいけん!?」と悲しみが怒りに変わり、川野さんたち同級生は募金活動を行います。集まった540万円(現代で5400万円相当)で「原爆の子の像」が完成。川野さんは現在も平和のために語り部を続けています。

「広島の中学生在が 語り継いでいます」

これまで原爆に興味のなかった人に危機感を持ってもらい、他県の人にも将来のことを考えて広島のことを広げてもらいたいという寺田さんの願いに、みなうなずいていました。広島では「ヒロシマの心」がしっかりと次世代に継承されていると知りました。(Tさん)

広島の中3生、寺田帆波さんが原爆ドームなどを案内してくれました。生協ひろしまでは子どもたちが自分の言葉で被爆の実相を継承する「子ども碑めぐりガイド」を育成しています。



特集

平和